

# 無量壽

平成21年1月1日  
浄土真宗 本願寺派  
林徳寺 発行  
025 - 276 - 3456

## 特集

## 林徳寺の本堂を

## 改修しました(その二)

前号で紹介したように、平成20年の春に本堂の改修工事を行いました。

その工事に伴って、それまで本堂の脇や裏の物置の中に押し込まれていた様々なものを、改めて整理することにしたのですが、そのがらくただと考えていた物のなかから、いくつかの宝物が発見されたのは驚くべき事でした。今回はその宝物について紹介いたします。

何よりも驚かされたことは、阿

弥陀如来の木像 一体が発見された

事でした。本尊として安置されて

いる阿弥陀如来像よりは幾分か小

柄ではありますが、百年以上前の

時代に京都の仏師が、寺の本尊用

として彫ったと思われる、立派な



新たに安置された阿弥陀如来像



蓮如上人の六字名号

仏像です。

ただなぜ

このような

形でこの仏

像が保管さ

れていたの

かは、残念ながらよくわかりません。ただ以前

現在駐車場になつているところに林徳寺の前寺

(独自の檀家を持たず、林徳寺のお手伝いをしてく

ださるお寺)があった、と言われていました。ですが

ら、この阿弥陀様はその前寺の本尊様だったので

はないかというのが現在最も有力な解釈です。

いずれにしても、大事な阿弥陀如来の木像です

から、今回改めて金箔などの修復をしていただ

き、本堂左側の余間といわれる

ところに安置いたしました。

さらにもう一つ発見された

宝物に、蓮如上人直筆の六字名

号南無阿弥陀仏の掛け軸があ

ります。五百年以上前に亡くな

られた方の文字の掛け軸です

から、すすけてしまつてくつき

りとはしません。よく見ますと本山などに保

管されている蓮如上人の直筆そつくりの文字が

かすかに見えます。

また、これは比較的新しいと思われる鑑定書

も一緒に保管されていきました。京都の常楽台と

いうお寺の住職が書かれた物です。常楽台は本

願寺第三代、覚如上人の長男を開祖とするお寺

で、その住職はこのような宝物の鑑定書をよく

書いておられます。この掛け軸並びに鑑定書も

貴重な物ですので、修復した厨子に入れて安置

いたしました。

このように、多くの宝物に巡り会うご縁をい

ただいたことは、住職として本堂にありがたい

ことでした。そして何よりの宝物である林徳寺

というお寺を

これからも

しっかりと守つ

ていかなけれ

ばという決意

を新たにいた

しました。



風除室に覆われた本堂の外観

# 浄土真宗の作法・心得（シリーズ9）

## 浄土真宗の組織

①寺院内部の組織

・代表役員…寺院を代表する責任者です。

林徳寺では住職が就任していません。

・責任役員…代表役員を補佐します。

林徳寺では坊守（住職の妻）と門徒総代のうちの一名が就任しています。

・門徒総代…林徳寺門徒（浄土真宗では檀家のことを門徒と言います）を代表する立場です。林徳寺には三名の門徒総代がおられます。

・世話方…門徒総代を助け、各地にお住まいの林徳寺門徒の皆様と寺とのパイプ役をしてくださいます。

現在二十五名の世話方がおられます。

②寺院外部の組織

・教区…全国を三十一に分けています。新潟県には「新潟教区」と「国府教区」

があります。

・組…教区をさらに細かく分けています。

林徳寺が属する新潟教区は七つの組に別れ、林徳寺は、そのうちの「新潟組」に属しています。

※本山などで、「どの寺の門徒ですか？」と

尋ねられた際は、「新潟教区、新潟組、林徳寺」の門徒であると言ってください。

### 連研参加者募集中!!

平成二十一年の四月頃から、新潟組の連続研修会（略して連研）が始まります。

組内の十ヶ寺程度を順に会場として、研修をするものです。浄土真宗の教えを知りたいといった興味のある方は、是非ご参加ください。

参加費等は不要です。詳しいことは住職にお尋ねください。お申し込みをお待ちしています。



梅護寺様を会場にした連研風景

## 日本語になった仏教の言葉 ⑬

### 《苦》

お釈迦様が覚りを開かれて最初にお説きになった教えは「四諦」の教えであったと言われています。諦とは真理のことですから、四つの真理という意味です。現実の生活は苦であり（苦諦）、その原因は煩惱であり（集諦）、これを滅すれば苦も滅する（滅諦）、そのためには八つの正しい道を行ぜよ（道諦）というのがその内容です。

ここで言われる「苦」という言葉は、「思うようにならない苦しみ」と言った意味です。けがや病気で苦しむという意味とは少し違ってきます。ですから仏教の覚りによって、けがや病気の苦しみが無くなるわけではありません。

私たちは、すべてを自分の思うようにしたいという煩惱に振り回されて、その思うがかなえられないことから、苦しまなくとも良い苦しみを味わって暮らしているのだと言えます。そのことに気付くことが仏道の始まりでもあります。